

平成 29 年 1 月 10 日号市報より

市子育て応援 シンボルマーク決定



◀ハートのなかで親子が向き合った、親子の愛を感じとれるマーク

市子育て応援シンボルマークの公募にあたり、応募された7案のなかから長山しのぶさんの案が選ばれ、同マークが決定されました(上図)。

決定された子育て応援シンボルマークは、市が発行する冊子やチラシ等、子育てに関する情報発信に活用するほか、「市子育て応援宣言企業」として子育て支援に積極的に取り組むことを宣言した企業等の広告など、さまざまな場面で活用していきます。



▲決定したシンボルマークを長山しのぶさん(右)から受け取る本間市長

平成 29 年 1 月 17 日茨城新聞より

2017年(平成29年)1月17日 火曜日

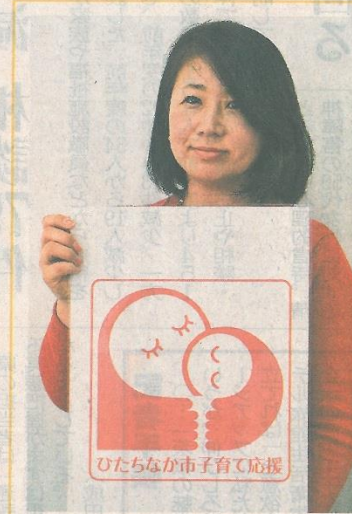
母親が抱く姿を表現

すぽっと
ライク

地域で子育て支援の機運を高めようと、ひたちなか市が公募していた「子育て応援シンボルマーク」に応募し、全7作品から採用された。マークは来年度から本格的に使用される。子育て支援に積極的に取り組むと宣言した事業所にステッカーで配布されたり、市報などの子育て関連記事に添付される。デザインは母親が子どもを

ひたちなか市の子育て応援マークに採用

ちょうやま
長山 しのぶさん



優しく抱きしめる姿を表した。「親子の愛」を表現しようとして、ハートマークを連想する形にした。そして、極力シンプルに。「マークが広まって、大変なお母さんの役に立ってほしい」高校3年の長男と中学3年

の長女を持つ2児の母。子育ては一段落した。かつては自分自身も「大変なお母さん」の一人だった。14年前に市外から市内に引っ越した。新しい土地で知り合いはゼロだった。特に子どもが幼稚園に入る前は「ママもが幼稚園に入るのも容易でなか

った。当時はインターネットや会員制交流サイトが普及する以前。子育て情報はほぼ市報頼みだったが、日々の忙しさで目を通す余裕はなかった。興味を持ったイベントを発見しても、既に終わっていたという苦い思い出もある。「マークを目印に、子育て支援情報に目が止まるようになってほしい」一方で、多くの困難を乗り越えられた気持ちも伝えたいという。「大変だったけど、最終的には子どもへの愛が苦労に勝った」

【メモ】デザインを勉強した経験はないが、幼少時から絵を描くことが好きだった。マークは市報で公募の記事を見て「ぽっと浮かんだ」という。同市在住。45歳。
●火曜掲載